

障害者支援施設報恩施設 令和7年度 地域連携推進会議 議事録

- 1 開催日時 令和7年10月27日（月曜日） 14時00分より
- 2 開催場所 障害者支援施設 報恩施設 会議室
- 3 出席者 利用者：1名
家族：2名
地域の関係者：NPO法人 高齢者・障害者サポートクラブ 3名
職員：運営責任者含め3名
- 4 欠席者 なし
- 5 議長 運営責任者
- 6 議事録作成 職員

【議長】

1. 令和7年度障害者支援施設 報恩施設、地域連絡推進会議の開催宣言と挨拶
2. 出席者紹介
3. 報恩施設の概要について
 - ・平成4年 開設、30年以上経過。
 - ・サービス内容 障害者総合支援法に位置付けられたサービス事業所。
日中は就労継続支援B型事業、夜間は施設入所支援事業を行っている。
平成7年4月より定員を100名から70名へ変更。
現在、就労B型 64名 施設入所支援 62名が利用。
 - ・就労継続B型→雇用契約、最低賃金適用外。
4. 事業計画について
 - ・令和7年度 事業計画について説明。
 - ・法人の地域貢献・広報活動として地域イベントへの出店計画及び定期販売会の補足説明。
 - ・町内学童保育へのおやつ提供（現在休止中）、町内児童養護施設へのおやつ提供（寄付）。ふるさと納税返礼品として、ここ数年で10件以上対応している。また、無人野菜販売所を2か所に設置。
 - ・利用者の年齢を含めた心身の状況を考慮した生活環境の提供の補足説明。就労B型施設は作業を行うことが大前提であり、高齢化などの理由で作業を行えなくなった方は、本人・家族へ説明・同意を得て施設移動を行っていかなければならない。
 - ・利用者の要望を受け入れ、利用者主体の行事を計画について補足説明。

実施した小規模レク（川越散策、スーパー銭湯等）、秋祭りなどを実施。

- ・感染症対策について補足説明。

新型コロナウイルスは5類になったが、行う事は変わらない。できる限り行動制限することなく、感染していない方は作業を行って頂く。

5. 利用者状況

- ・利用者状況：男性 38名 女性：24名
- ・平均年齢 56.8歳 最高齢者 75歳
- ・令和元年からの入退所者状況
 - 入所者 3名（自宅から2名、法人他施設より1名）
 - 退所者 法人他施設 21名 老人ホーム 2名 グループホーム 4名
 - 自宅 3名 入院2名 永眠 4名
- ・作業区 外部実習 13名 紙工班 15名 食品加工班 7名
- クリーニング班 19名 農業班 10名

6. 職員状況

- ・常勤 21名（内 障害者雇用1名） 非常勤 3名 学生アルバイト 1名
- 夜勤 1名体制

※項目1～3については 運営責任者が説明を担当しました。

7. 個別支援計画（意思決定支援・地域意向確認）

- ・毎年3、9月にモニタリング、アセスメントを行い個別支援計画を作成。
 - 本人へ説明を行い、同意を得て援助を行っている。
 - ・説明をした際に、どのような生活をしたいか等の「本人の意思確認」、「地域移行等の希望確認」を行っている。
- 下期の地域移行等の希望について
- ①グループホームを希望 8名、②自宅を希望 3名
 - ③アパートでの一人暮らしを希望 6名 ④法人内施設を希望 3名
- 一般就労やグループホームから報恩施設 作業区へ通いたいとの希望もある。

※項目7については運営責任者、職員が説明を担当しました。

8. 質疑応答

【利用者】

- ・特にありません。

→何か困ったことなどある際は、職員へ伝えて欲しい。（運営責任者）

【家族】

- ・（事業計画に）コミュニケーションを密にとると話していたが、どのようにしていくのか。

→保護者会の総会などあれば、その機会に伝える事も可能だが現状では中々難しい状況。手紙や電話、場合によってはこちらから出向くなど積極的にアクションを起こしている。（運営責任者）

【地域の関係者】

- ・町内 2 か所の無人販売所は何処にあるのか。

→法人敷地入口、前久保地区の食事サービスセンターに設置している。地域の人から大変好評を得ている。

- ・職員の勤続年数はどのくらいか。また配属後、一年で退職するケースはあるのか。

→職員の平均勤続年数は 10 年ほど。新採用者はここ数年配属されておらず、4 年ほど前に最後に配属された新採用職員も退職せずに働いている。現在配属されている職員は知識や経験のあるベテランが揃っている。

- ・学生アルバイトはどのような仕事をしているのか。

→常勤職員と同様。他の施設のような直接支援は殆ど無く、間接業務が主である。

- ・グループホームを作つて、利用者の移動等に対する希望を叶える等の方策は考えているのか。

→利用者様の選択肢の一つとして、グループホームの整備も必要であると法人の中で話が出ている。

- ・地域へ出た後に適応できなかつた際は、報恩施設に戻れとなれば、相談業務もある程度背中を押すことが出来る。

→状況により受け入れることは可能。（上記 運営責任者）

- ・作業評価について。身体的機能により全体的に頑張っているが、評価が低い方がいる。

身体的な機能も加味した、プラスアルファの評価は検討出来ないのか。

→評価項目以外にもプラス査定できる。「出来ないからランクを下げる」ではなく、「どのようにしたらランクが上がるのか」といった観点で評価している。（職員）

- ・個別支援計画 説明及び同意について。家族にも説明などを行つてはいるのか。

→報恩施設の利用者は説明を理解できるため本人へ説明し同意を得ているが、必要に応じ、家族へも説明し同意を得ている。（職員）

9. 施設訪問の感想

家族（訪問日時：令和 7 年 9 月 25 日 木曜日 11：00）

- ・皆さん笑顔で作業を行っており、適材適所で配属されていると思った。
- ・長年施設を利用していたが、始めて作業の現場を見た。利用者さんの表情が生き生きしていた。
- ・面会に来た際は作業がお休みの日で、皆さん暇そうにしていた。訪問時は全然表情が違っていた。

地域の関係者（訪問日時：令和7年10月27日 月曜日 午前中）

- ・日中、施設の中には利用者がほとんどおらず、たまに椅子とかで横になっている利用者を見かける程度。
- ・トイレなども綺麗に掃除されている。
- ・作業を見てきたが、静かに話すことなく一生懸命行っていた。農業班の方も良く話しかけてくれて、色々と教えてくれる。

以上、議長は議事が全て終了した旨を告げて、15時00分に閉会となる。